



i-Reporter

アイレポーター

活 用 事 例

**i-Reporter × kintone × kViewerで、全社の記録と情報共有を効率化&リアルタイム化！
「活用できる情報」が現場の改善スピードを高める原動力に**

（九州柳河精機株式会社）

CIMTOPS

CASE 8

i-Reporter × kintone × kViewerで、全社の記録と情報共有を効率化&リアルタイム化！ 「活用できる情報」が現場の改善スピードを高める原動力に

九州柳河精機株式会社（輸送用機械器具製造業）



熊本県菊池市で1976年に創業した自動車部品メーカー、九州柳河精機株式会社はアルミの鋳造から加工、塗装、組立までを自社で一貫して対応できる生産体制を強みに、来年で創業50周年を迎える。創業当初は主に2輪部品を生産していたが、時代の変化に対応しながら新たなニーズに応えられる体制を整え、高品質な部品を多くの自動車メーカーに供給し続けてきた。



ITプロジェクト
北川 義久氏



製造部
小林 正憲氏



工機課
有働 明美氏



機械1課
橋本 保憲氏



管理部
右田 光利氏



九州柳河精機では、従来、各部門での記録業務が紙ベースで行われており、記入・回収・転記・集計といった一連の作業に多大な手間と時間を要していた。部門間で情報を共有する際にも状況をリアルタイムで把握することも困難だったため、不具合への対応が遅れたり、複数工程での製造業務の段取りにも影響が及ぶなど、現場全体の運営に支障が生じていたという。

i-Reporter導入後は、kintone・kViewerとの3システム連携により、複数の業務に渡り、帳票にかかわる一連のプロセスがデジタル化。記録が効率化されミスが削減されただけでなく、タイムリーな状況把握や改善活動による生産性向上に結びついた。

 **i-Reporter**
アイレポーター



 **kintone**

 **kintone**



 **kViewer**

**NEXT**

各部門が抱えていた課題 & 導入後の改善について詳しくは次ページから! ▶

190ラインの日報をリアルタイム化し、管理負担を大幅に削減！

九州柳河精機では、これまで紙ベースで運用していた作業日報をi-Reporterにより電子化したことで、約190ライン分の作業実績をその日のうちに把握・分析できる仕組みを構築した。情報は即時にkintoneに連携され、kViewerで視覚的に確認できるようになったことで、改善活動のスピードも大幅に向上している。

効果
導入前
i-Reporter
導入後

190ライン分の日報を処理するのに
毎日6時間かかっていた

情報が共有されるまで1~2日かかるため
改善活動が後手になっていた

停止原因の分析に時間がかかっていた

タブレットでの日報入力により処理が即時化、
6時間分の作業がゼロになった

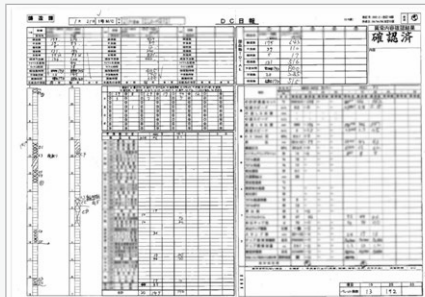
データはkintoneに反映され、
管理者や他部署にも当日中に共有

蓄積された情報はkViewerで一覧化、
稼働率や不稼働原因もすぐに把握可能に

抱えていた課題

従来は、190に及ぶ生産ラインごとの作業日報を紙の帳票に手書きし、職制による確認と製造部での集約を経て管理部門へ届けられる仕組みになっていた。

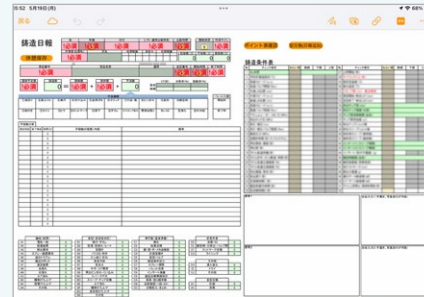
そのため、帳票を処理する一連の作業に時間を要していただけでなく、情報共有にタイムラグが発生し課題への対応が遅れたり、帳票記入自体にも記入漏れや転記ミスが多発していた。



導入後の変化

i-Reporter導入により、**日報の回収・入力業務が不要になり、0.8名分の工数を削減**。記入漏れや転記ミスも減り、**データ精度が向上**した。

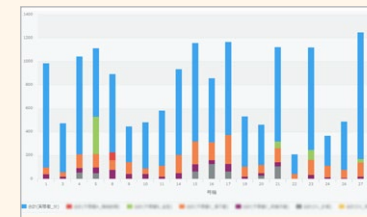
入力内容が即座にシステム上に反映されるため**管理部門が現場の状況をリアルタイムで把握**し迅速に判断・対応できるようになった。kViewerで稼働率や停止時間といった**KPIを一目で確認できるため、生産性向上にも直結**している。



日報の電子化が「生産性向上」の起点に！

生産ラインにおいて「不稼働」が長引くと、その分だけ生産量が落ち無駄が増え、原因がわからなければ同じロスを繰り返すことになってしまう。**生産ライン上の「どこで」「なぜ」「どれくらい」不稼働が発生しているかを正確に把握することは生産性を左右するきわめて重要な要素**といえる。九州柳河精機株式会社で不稼働の把握に大きく貢献しているのが、電子化された作業日報だ。

情報を使い勝手の良い形に変換しやすくなったことで、**長期的な推移を把握することにもつながった**。難易度の高い部品の合格率や改善施策の効果を継続的に検証することで**現場での取り組みの成果が明確に確認できる**ようにもなるという意味でも、電子化された日報は生産性向上の起点になりうるのである。



一括表示 クリックすると詳細を表示します。 《稼働状況（9月16日）》 昨日の稼働状況 主要機種

機種別稼働率(%)の推移。表示は稼働率(%)。稼働率(%)は(稼働時間/総稼働時間)×100で計算されます。

機種名	稼働率(%)	稼働時間(分)	停止時間(分)	稼働率(%)	稼働時間(分)	停止時間(分)	稼働率(%)
機種A	95	180	10	95	180	10	95
機種B	90	180	20	90	180	20	90
機種C	85	180	25	85	180	25	85
機種D	80	180	30	80	180	30	80
機種E	75	180	35	75	180	35	75
機種F	70	180	40	70	180	40	70
機種G	65	180	45	65	180	45	65
機種H	60	180	50	60	180	50	60
機種I	55	180	55	55	180	55	55
機種J	50	180	60	50	180	60	50
機種K	45	180	65	45	180	65	45
機種L	40	180	70	40	180	70	40
機種M	35	180	75	35	180	75	35
機種N	30	180	80	30	180	80	30
機種O	25	180	85	25	180	85	25
機種P	20	180	90	20	180	90	20
機種Q	15	180	95	15	180	95	15
機種R	10	180	100	10	180	100	10
機種S	5	180	105	5	180	105	5
機種T	0	180	110	0	180	110	0

2 200メートル塗装ラインの「リアルタイム見える化」で、現場改善&効率UP

全長約200メートルに及ぶ塗装吊り掛けラインでは、部品の投入からラインを出るまでにおよそ3.5時間を要する。従来は紙日報で行っていた記録と情報共有をデジタル化したことで、現場の状況が即時連携・見える化され、後工程との連携がスムーズになっただけでなく、作業手順や段取りの最適化にもつながった。

効果
導入前
i-Reporter
導入後

手書きでの記録作業は煩雑で、情報を得るためには
現場まで出向いて日報を確認する必要があった

前工程から流れてくる部品の事前把握が難しく
作業の準備に影響していた

効率指標が活用されず改善活動に結びつかなかった

タブレットやPCで情報が手軽に入力できるようになり、すぐに他部門にも共有される仕組みに

1部品ごとに即登録することで、次に流れてくる部品や数量をリアルタイムに把握可能になった

KPIをグラフにして「見える化」したことで
ハンガー効率(作業効率)がすぐに改善!

抱えていた課題

塗装吊り掛けラインでは計画通りに部品が投入されるとは限らないため、進捗状況やどの部品がどれだけ流れてくるのかを把握したい後工程の担当者は、吊り掛け作業の現場まで出向き手書きの記録内容から情報を得る必要があった。

管理者と情報共有する際にも日報を回収・入力する手間がかかり、蓄積されたデータも個別に管理されていたため活かしきれない課題があった。



導入後の変化

i-Reporterにより記録作業がデジタル化され、**作業の実績が現場でタブレットから入力されるとkintoneにすぐに連携される仕組みが実現**。後工程の担当者が自席からkViewerを用いて**リアルタイムに情報を確認できる**ことで作業の準備・段取りがスムーズになった。

記録された情報はkViewer上でグラフ化され、特にハンガー効率(作業効率)というKPIがその推移まで「見える化」されたことで、**日々の改善活動に活用できるようになった。**



情報の即時共有 + KPIの見える化がもたらす価値

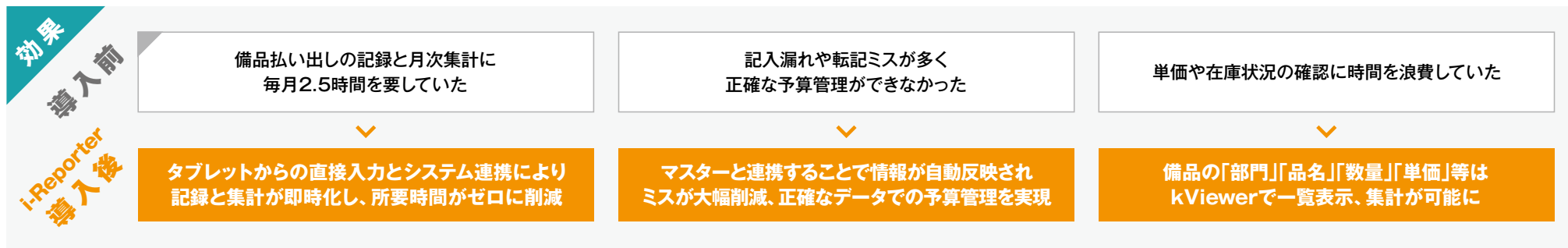
リアルタイムな情報が適切に共有されていないことで、準備や段取りに遅れが生じ、生産性が低下してしまうケースは少なくない。また、情報を把握するためだけに現場を移動する時間と労力も、毎日積み重なれば大きなロスとなる。**作業日報**を電子化し、複数の現場と管理者が同じ情報を同じタイミングで把握できるようになることで得られるメリットは相当大きいといえる。

さらに、記録された情報がグラフや一覧で「見える化」されると、**関係者間での共通認識を生みやすく、改善策の検討や納得感ある判断にもつながる**。直感的に判断しやすい「見える化」されたデータを共有できるという点から考えても、作業日報の電子化は現場の改善を持続的に進めるうえでは非常に効果的といえるだろう。

[illegible]

3 備品管理のデジタル化がもたらした省力化と現場のコスト意識の変化

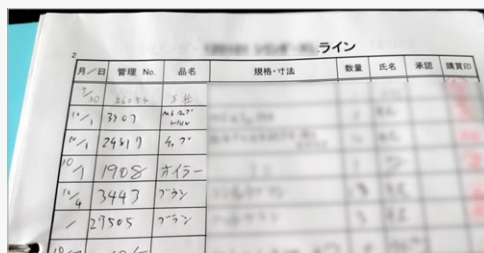
備品や製作工具等の払い出し管理における煩雑な記録作業や確認業務を、i-Reporterとkintoneの活用によってデジタル化。作業者の負担軽減と記入ミスの削減に加え、現場でのコスト意識の醸成にもつながる仕組みが整えられた。



抱えていた課題

備品や製作工具などの払い出し業務では、各作業者が紙の台帳に手書きで記録し、月末に1ヶ月分の払い出し情報をまとめて転記入力する運用を行っていた。

その結果、記録と入力に時間がかかるうえ、単価や消費状況の問い合わせに対応する手間もかかり、記入漏れや転記ミスも多いため予算の正確な把握や在庫管理に支障が出ていたため、作業・管理者の双方にとって大きな負担となっていた。



導入後の変化

タブレット上でマスターから呼び出した「名称」「単価」などを確認して数量を入力するだけで記録が完了。記入漏れや転記ミスも激減し、集計や管理もリアルタイムで可能になった。

さらに、kViewerで月ごとの集計や部門ごとの消費状況をグラフ化できるようになり、現場と事務所の双方で予算管理・在庫管理しやすくなったことで無駄な発注の防止につながった。



記録のデジタル化で「コスト意識を持った現場」へ！

正確な備品管理とコストの最適化を実現する上で重要なのは、**作業者一人ひとりが「何をどれだけ使っているのか」をすぐに確認できる仕組みを整えること**だ。紙の台帳ではどうしてもある程度記録がまとまった段階で情報をまとめることになりがちで、リアルタイムでの状況把握は難しい。また、必ず生じるヒューマンエラーにより情報の精度も課題になることが多い。備品払い出しの記録や参照をデジタル化することでこうした課題は解決可能だ。

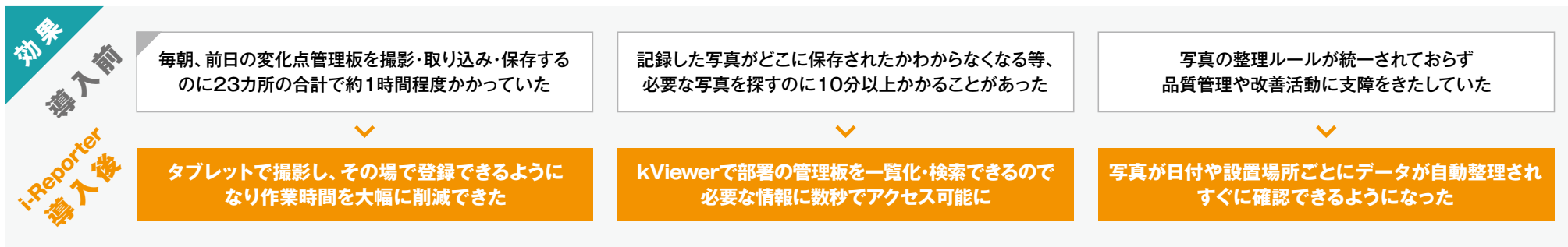
消費状況や単価を即座に確認できるようになることで**作業者のコスト意識にも変化が現れる**。九州柳河精機株式会社でも、**自然と「高価な備品だから大切に使う」といった意識が現場の作業者に芽生える効果が得られた**という。誰でも情報を参照しやすいシステムにすることは、当事者意識の醸成や自律的な改善行動にもつながりうる。

現場が主体的に動くための仕組みづくりとしても、備品管理のデジタル化は大きな意義をもっている。

部署名	品名	2025-05	2025-06	2025-07
営業部	事務用品	¥ 2,341,694	¥ 2,341,694	¥ 2,341,694
営業部	事務用品	¥ 1,330	¥ 1,330	¥ 1,330
営業部	事務用品	¥ 598	¥ 598	¥ 598
営業部	事務用品	¥ 6,340	¥ 6,340	¥ 6,340
営業部	事務用品	¥ 360	¥ 360	¥ 360
営業部	事務用品	¥ 350	¥ 350	¥ 350
営業部	事務用品	¥ 168	¥ 168	¥ 168
営業部	事務用品	¥ 60	¥ 60	¥ 60
営業部	事務用品	¥ 33,917	¥ 33,917	¥ 33,917
営業部	事務用品	¥ 35,591	¥ 35,591	¥ 35,591
営業部	事務用品	¥ 6,340	¥ 6,340	¥ 6,340
営業部	事務用品	¥ 2,060	¥ 2,060	¥ 2,060
営業部	事務用品	¥ 8,285	¥ 8,285	¥ 8,285
営業部	事務用品	¥ 3,420	¥ 3,420	¥ 3,420
営業部	事務用品	¥ 9,790	¥ 9,790	¥ 9,790
営業部	事務用品	¥ 6,185	¥ 6,185	¥ 6,185
営業部	事務用品	¥ 260	¥ 260	¥ 260
営業部	事務用品	¥ 20,710	¥ 20,710	¥ 20,710
営業部	事務用品	¥ 60,590	¥ 60,590	¥ 60,590
営業部	事務用品	¥ 41,915	¥ 41,915	¥ 41,915
営業部	事務用品	¥ 172,730	¥ 172,730	¥ 172,730
営業部	事務用品	¥ 16,120	¥ 16,120	¥ 16,120
営業部	事務用品	¥ 2,050	¥ 2,050	¥ 2,050
営業部	事務用品	¥ 9,710	¥ 9,710	¥ 9,710

4 変化点管理板の写真管理を即時化し、全社横断の品質改善を実現

設備や作業手順など、生産条件の変化をタイムリーに把握・共有するための「変化点管理板」。九州柳河精機株式会社では、手書きした内容をデジカメで撮影し、PCから手動で共有していたが、i-Reporterの活用により写真管理を即時化できるようになった。これにより、迅速な品質管理と改善活動が実現できたという。



抱えていた課題

変化点管理板を撮影し、PCに保存する作業を全て手動で行っており、**23カ所の写真の保存作業だけで合計約1時間を要していた**。

また、部署ごとに保存先が異なる等、写真の整理ルールが統一されていなかったこともあり、グループをまたいで情報を閲覧しようとする時間がかり、品質管理や改善活動の際に**過去の記録を遡るのが困難な状況だった**。



導入後の変化

写真はタブレットで撮影し、i-Reporterの帳票で「日付」と「設置場所」を選択するだけで、**自動的に正しいフォルダに保存、同時にkintoneに即時連携される**仕組みを構築。ファイルサイズも自動調整され、サーバー容量の節約にもつながった。

kViewerで全部署の管理板を一画面で確認できるようになり、**必要な情報へのアクセスにかかる時間が大幅に短縮**。変化点や改善点を即座に確認できるようになったことで、**トラブルの再発防止や現場教育にも役立っている**。



タイムリーな情報共有と迅速な品質改善を実現

製造現場では、特に新人作業員の担当工程や設備変更の発生時には不良が流れるリスクが高まるため、**設備・人・方法・材料といった生産条件の変化をタイムリーに把握し、関係者全員で共有することが品質管理には欠かせない**。そこで用いられるのが「変化点管理板」だ。

i-Reporterなら**kintoneと連携することで変化点管理板の画像をその場ですぐに保存・共有する仕組みを実現可能**だ。さらにkViewerを活用することで、**全部署の変化点管理板を一画面で横断的に閲覧できるインターフェースを構築**することもできる。

こうした**外部システムとの連携でも力を発揮するi-Reporter**は、情報をリアルタイムで共有し品質管理と現場の改善活動を支える基盤となり、全国の様々な現場で全社的な品質改善を支えるツールとして確かな成果をあげている。

